

関恒義名誉教授略年譜

- 1924年 9月 27日 関琴義・れつの二男として長野県長野市長野旭町 1137 番地に生まれる
- 1937年 3月 長野県立長野師範学校附属小学校卒業
4月 長野県立長野中学校入学，剣道部に所属
- 1940年 4月 東京府立第十中学校へ転校
- 1942年 3月 同校卒業
4月 東京商科大学予科入学，山岳部に所属
- 1944年 9月 東京商科大学本科進学，中山伊知郎教授のゼミナールに参加
10月 学徒出陣により特別甲種幹部候補生として仙台陸軍予備士官学校へ入隊
- 1945年 6月 見習士官として護弘 22857 部隊へ配属，青森県太平洋沿岸の「ハリツケ」部隊に所属
8月 終戦とともに陸軍少尉となる
9月 本籍地の長野県北安曇郡陸郷村 806 番地（戦後の町村合併により現在は東筑摩郡明科町南陸郷 806 番地）へ復員，東京商科大学へ復学
- 1948年 3月 東京商科大学卒業
4月 東京大学理学部数学科研究科の研究生となり，弥永昌吉教授のゼミナールに参加
- 1949年 6月 東京商科大学助手
- 1952年 4月 一橋大学教養課程において数学を担当（停年まで）
- 1953年 7月 一橋大学経済学部専任講師

- 1954年 4月 一橋大学経済学部において経済理論特殊問題を担当
- 1956年 4月 教養課程でゼミナールを担当(1959年3月まで)
- 1957年 4月 経済学部でゼミナールを開講
7月 一橋大学経済学部助教授
- 1962年 4月 一橋大学大学院経済学研究科兼任
- 1963年 4月 経済学部において社会主義経済学を担当(経済理論特殊問題は廃止)
- 1966年 11月 一橋大学経済学部教授
- 1969年 3月 社会主義圏における数理経済学研究とローザンヌ学派、オーストリー学派の研究動向の調査と資料収集のため、ソビエト連邦、ポーランド、ハンガリー、オーストリー、スイス、フランスへ出張(8月帰国)
- 1973年 4月 一橋大学評議員(1975年3月まで)
- 1980年 4月 経済学部の大講座制への移行により社会資本論を担当(以後社会主義経済学と交互に1年おきに開講)
- 1982年 3月 ベトナム社会科学院の研究者たちとの研究交流と資料収集のためベトナムへ出張(4月帰国)
- 1984年 6月 日本教職員組合大学部執行委員長(1987年7月まで)
- 1988年 3月 停年により一橋大学を退職
4月 一橋大学名誉教授、行財政総合研究所副理事長
6月 日本科学者会議機関誌『日本の科学者』編集委員長

年譜への註

- 1 学会については、はじめ理論経済学会、計量経済学会に参加したが、経済理論学会の結成とともに、両学会を退会して経済理論学会に参加する。社会主義経済学会、日本科学者会議、唯物論研究会には結成いらい参加している。また、1970年代なかごろから自治体問題研究所の活動に参加し、常任理事から顧問となり、現在に至る。

2 兼任の非常勤講師として、1950年代には国立音楽大学で数学、都留短期大学（現在の都留文科大学）で経済通論、大蔵省経済研究会で経済数学、税務講習所で経済原論、専売公社研修会で経済学、東京経済大学で統計学、経済統計、神奈川大学で経済学特殊問題（数理経済学）、1960年代には法政大学（大学院を含む）で計量経済学、国学院大学で現代経済学、1970年代には静岡大学で集中講義の経済学特殊問題（近代経済学史）、国学院大学大学院で数理経済学を担当する。